

■区立中学校の小規模化の課題

- 活力ある学習活動や部活動の展開に制約を生む。
- 学習集団が固定化する。
- 集団活動を通じた人間関係の広がり十分とはいえない。
  - ・・・など、教育活動においてさまざまな影響が生じる。

■統合方針「望ましい規模の区立中学校の実現を目指して」（平成24年3月改定）

区立中学校については、学級数で11学級以上、生徒数で300人を超える学校規模が望ましい。⇒必要な生徒数と教員数を確保できる

■大鳥中学校統合のねらい

旧第三中学校と旧第四中学校を統合することにより、適正規模化を実現し、活力ある学習活動を展開し、集団の中で豊かな人間関係をはぐくみ、充実した学習・指導体制を整えること

■統合の経過

○平成24年3月	統合方針「望ましい規模の区立中学校を目指して」改定
○平成24年5月	「第三中学校・第四中学校の統合新校推進協議会」設置
○平成25年3月	「第三中学校・第四中学校の統合整備方針」策定
○平成25年6月	「統合新校開設準備委員会」設置 ・専門部会として「教育計画当部会」、「校章・校旗、校歌部会」、「標準服部会」を設置。
○平成25年12月	目黒区立学校設置条例の一部を改正する条例公布
○平成26年4月	大鳥中学校開設準備担当校長設置（第四中学校長が就任） ・これに伴い「統合新校開設準備委員会」を同校長を委員長とする「大鳥中学校開設準備委員会」に改組
○平成27年4月	大鳥中学校開校

■適正規模化の実現

統合により大鳥中学校が開校し、適正規模（学級数で11学級以上、生徒数で300人を超える規模）が実現した。

○生徒数及び学級数 (各年度5月1日現在)

年度	生徒数				通常の学級数			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
27	119	132	111	362	4	4	3	11
28	131	119	131	381	4	3	4	11

○教職員数 (各年度5月1日現在)

年度	校長	副校長	国語	社会	数学	理科	外国語	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	養護	特別支援	栄養士	事務	非常勤教	計
28	1	1	3	2	3	2	3	1	0	3	1	1	1	5	1	2	1	31

■大鳥中学校の統合による成果・課題の検証の実施

大鳥中学校は、本年度で2年目を迎え、統合の過程を経験した生徒が最終学年である3年生となっている。区最初の統合校である目黒中央中学校については開校5年目の平成22年度に統合評価を行ったが、評価委員会において複数の委員から「統合の過程の最中にいた子どもたちの意見を聞いたかった、聞くべきであった」という意見があった。このような発言を受け、本年度を検証を行う機会と捉え、生徒たちの意見を聞くことにより統合における成果や課題をまとめ、大鳥中学校の運営及び南部・西部地区の区立中学校の統合の取り組みに活かすため検証を行ったものである。

■検証項目

- 統合による生徒の変化等
  - ・統合後の学校生活における生徒の変化や様子
  - ・その他生徒の変化や様子
- 統合による教育効果等
  - ・学校経営面（学習指導、学級経営、特別活動、学年経営等）の効果と今後の統合における課題
  - ・学校生活面（集団活動、生活指導等）の効果と今後の統合における課題
  - ・統合によって実施した特徴的な教育活動等
  - ・保護者や地域の反応等

■検証組織

南部・西部地区統合の取組みに活かすために行うことから、既存の庁内検討組織「南部・西部地区の区立中学校の適正配置に向けた検討会」において検証した。

目黒中央中学校については区初の統合校であり、統合の進め方及び学校づくりの成果について検証し課題を明らかにする必要があったことから、外部委員による評価委員会を設け統合評価を行ったが、大鳥中学校については、それらの評価結果を踏まえ進めてきたことから、成果の確認に主眼を置くこととし、庁内組織により平成28年6月から取り組んだ。

検討会構成員	教育委員会事務局	教育長、教育次長、教育政策課長、学校統合推進課長、学校運営課長、学校施設計画課長、教育指導課長、教育支援課長、統括指導主事
	学校	第七中学校校長、第八中学校校長、第九中学校校長、第十一中学校校長、向原小学校校長（小学校校長会第4ブロック代表）、東根小学校校長（小学校校長会第5ブロック代表）

■検証手法

○アンケート

調査項目

- ・全体 ・学校生活 ・標準服、体育着 ・施設環境
- ・通学区域 ・学習指導 ・学年経営、学級経営等
- ・特色ある教育活動 ・特別活動 ・教職員の負担
- ・大鳥中学校と保護者、地域との関係 ・統合の過程

調査の設計

調査対象 大鳥中学校在校生、卒業生、保護者、教職員、地域関係者

対象者数 1141人

調査方法 大鳥中学校を通じた配布・回収及び郵送による配布・回収

調査期間 平成28年11月2日～16日

回収結果 配布数 1125票 回収率 73.4%  
有効回答数 826票 有効回収率 73.4%

○大鳥中学校長ヒアリング

目的 アンケートの参考とするため実施。

実施日 平成28年11月24日

実施者 学校運営課長、教育指導課長、学校統合推進課長

■アンケートの実施結果 \*肯定的評価の割合を表しています。

設問	大鳥中学校在校生及び卒業生				大鳥中学校在校生及び卒業生の保護者				教職員	地域関係者	全体	
	卒業生	中3	中2	中1	卒業生の保護者	中3の保護者	中2の保護者	中1の保護者				
学校統合により大鳥中学校が開校して全体的にどう思いますか	86.7%	75.4%	83.2%	69.9%	78.4%	84.6%	78.9%	70.4%	67.7%	85.2%	76.8%	
学校規模	生徒数が増えてよかった	76.7%	76.9%	79.8%	64.7%	81.1%	85.6%	72.2%	73.6%	67.7%	88.9%	75.7%
	学級数が増えてよかった	73.3%	68.5%	74.8%	63.2%	83.8%	83.7%	74.4%	70.4%	64.5%	81.5%	72.5%
学校生活	教職員数が増えてよかった	63.3%	57.7%	63.0%	64.7%	75.7%	76.9%	73.3%	72.8%	74.2%	81.5%	68.4%
	部活動数が増えてよかった	66.7%	63.8%	71.4%	75.2%	54.1%	67.3%	68.9%	66.4%	35.5%	74.1%	67.1%
	勉強する意欲が高まった	60.0%	58.5%	—	—	48.6%	43.3%	—	—	—	—	52.2%
	意見や発表をしやすくなった	50.0%	41.5%	—	—	24.3%	24.0%	—	—	—	—	34.2%
標準服等	友人関係が広がった	90.0%	85.4%	—	—	81.1%	76.9%	—	—	—	—	82.4%
	競争意識が高まった	53.3%	53.8%	—	—	45.9%	44.2%	—	—	—	—	49.5%
	いじめやけんかなどのトラブルに学校が迅速に対応してくれる	43.3%	46.9%	—	—	24.3%	32.7%	—	—	—	—	38.9%
施設環境	新しい標準服が気に入った	76.7%	79.2%	—	—	—	—	—	—	—	—	78.8%
	新しい体育着が気に入った	63.3%	72.3%	—	—	—	—	—	—	—	—	70.6%
通学区域	学校施設が改修され、学校生活が過ごしやすくなった	66.7%	63.8%	66.4%	72.2%	59.5%	64.4%	67.8%	47.2%	48.4%	—	62.8%
	生徒用ロッカーが用意され、学校生活に役立った	83.3%	71.5%	69.7%	76.7%	67.6%	68.3%	71.1%	57.6%	32.3%	—	68.2%
学習指導	通学距離が長くなった	23.3%	23.8%	—	—	35.1%	24.0%	—	—	—	—	25.2%
	通学距離が長くなったが、特に気にならない	71.4%	40.6%	—	—	61.5%	60.0%	—	—	—	—	53.2%
学年経営、学級経営等	学習指導がわかりやすくなった	50.0%	53.1%	—	—	—	—	—	—	—	—	52.5%
	学習指導が充実するようになった	—	—	—	—	—	—	—	—	48.4%	—	48.4%
特色ある教育活動	教職員数が増えたことにより、学年経営、学級経営が充実するようになった	—	—	—	—	—	—	—	—	61.3%	—	61.3%
	教職員数が増えたことにより、生活指導が充実するようになった	—	—	—	—	—	—	—	—	58.1%	—	58.1%
	「人権教育の推進」に魅力を感じている	46.7%	47.7%	65.5%	60.9%	45.9%	44.2%	66.7%	60.0%	54.8%	70.4%	56.8%
特別活動	「英語によるコミュニケーション能力の育成」に魅力を感じている	53.3%	55.4%	72.3%	67.7%	62.2%	60.6%	81.1%	83.2%	61.3%	77.8%	68.6%
	「社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成」に魅力を感じている	56.7%	60.8%	68.9%	69.2%	59.5%	63.5%	80.0%	66.4%	58.1%	74.1%	66.7%
	校外学習、運動会、文化祭などが活発になった	83.3%	73.8%	—	—	78.4%	66.3%	—	—	74.2%	74.1%	73.0%
教職員の負担	生徒会活動が活発になった	70.0%	63.8%	—	—	54.1%	53.8%	—	—	61.3%	59.3%	59.9%
	部活動が活発になった	70.0%	63.1%	—	—	51.4%	53.8%	—	—	67.7%	63.0%	67.4%
大鳥中学校と保護者、地域との関係	校務分掌上の負担が軽くなった	—	—	—	—	—	—	—	—	22.6%	—	22.6%
	学校行事の運営などの負担が軽くなった	—	—	—	—	—	—	—	—	22.6%	—	22.6%
	学校との関係が緊密になった	—	—	—	—	37.8%	33.7%	—	—	—	66.7%	39.9%
統合の過程	保護者との関係が緊密になった	—	—	—	—	—	—	—	—	25.8%	—	25.8%
	地域との関係が緊密になった	—	—	—	—	—	—	—	—	38.7%	—	38.7%
	統合に関する情報が積極的に伝えられた	—	—	—	—	70.3%	68.3%	70.0%	66.4%	54.8%	77.8%	67.9%
保護者・地域	交流活動として、旧第三中学校と旧第四中学校で合同遠足等が行われ交流が深まった	76.7%	63.1%	—	—	78.4%	72.1%	—	—	48.4%	—	67.5%
	交流活動として、下目黒小、油面小、田道小、不動小の4校で合同遠足等が行われ交流が深まった	—	—	56.3%	—	—	—	60.0%	—	—	—	57.9%

■大鳥中学校の統合による成果と課題

区分	成果	課題
全体	・学校統合により大鳥中学校が開校したことについて、全体的に満足感が得られたこと。	
学校規模	・生徒数、学級数、教職員数、部活動数が増えたことについて、満足感が得られたこと。	
統合による生徒の変化等	○統合後の学校生活における生徒の変化や様子 ・友人関係が広がったこと、及び勉強する意欲や競争意識が高まるきっかけになったこと。 ・生徒が専門部会に参加することなどにより選定した標準服等が好評であること。 ・校舎、体育館棟の内装改修等により学校生活が過ごしやすくなったこと。 ・通学区域の設定が概ね理解されたこと。 ○その他の生徒の変化や様子 ・統合の過程において、2年間にわたる学校間の交流活動により生徒間の交流が深まったこと。	・生徒が意見や発表をしやすくなったことの実感が強くは得られていないこと。 ・いじめやけんかなどのトラブルに学校が迅速に対応してくれることの実感が強くは得られていないこと。 ・通学区域の拡大について、起床や体力面への不安が一部にあること。 ・学校間の交流活動について、同一学校で固まるなど取り組み方に対する意見が一部にあったこと。
統合による教育効果等	○学校経営面及び学校生活面の効果 ・電子黒板などICT機器の導入や教職員数の増加が学習指導充実のきっかけになったこと。 ・教職員数の増加により、学年経営、学級経営、生活指導等が概ね充実するようになったこと。 ・特別活動が活発になったこと。 ○統合によって実施した特徴的な教育活動等 ・特色ある教育活動が学校の魅力づくりに寄与していること。 ○保護者や地域の反応等 ・統合の過程において、説明会の開催や広報誌の発行などの情報発信が有効であったこと	・教職員に校務分掌上、学校運営上の負担感が軽くなったことについて実感が強くは得られていないこと。 ・部活動の練習時間や活動場所の制限についての意見が一部にあること。 ・大鳥中学校と保護者、地域との関係について、緊密化が図られたという実感が強くは得られていないこと。 ・統合後に学級単位の保護者間の交流の機会がほしかったという意見が一部にあったこと。

■南部・西部地区の区立中学校の統合に向けた課題

区分	課題
学校生活	・生徒や教職員が学校生活の変化に適應することができるよう統合過程の交流活動に取り組むなど配慮すること。 ・生徒ができるだけ参加する場を設定するよう努め、統合新校の一体感を醸成すること。 ・通学区域の拡大について、生徒の負担に配慮すること。
学校経営	・学習指導が充実するよう教育ニーズに即した教育環境の整備を図ること。 ・特色ある教育活動により学校の魅力を高めること。 ・統合に伴う教員の負担感をできるだけ解消するよう努めること。 ・統合前の既存の部活動の発展・存続など十分検討すること。
保護者・地域	・保護者や地域に向けて積極的に情報発信を行い、理解・協力を得るよう努めること。 ・保護者間の交流に配慮すること。

※目黒中央中学校統合評価における課題も踏まえて、今後の検討に活かしていく。